

第2学年 美術科学習指導案

令和5年12月6日(水)第5校時
場 所 美術室

1 題材名 **ざ・ぐれいと・うえいぶ**

【第2学年及び第3学年】B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕ア、イ

2 題材について

(1) 生徒の実態

※省略

(2) 題材観

学習指導要領の第2学年及び第3学年の内容として、B鑑賞(1)イ(イ)には、日本の美術作品について「伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深める」「美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考える」という文言が見られ、ここからは「国際理解のためには自国の文化を理解し、誇りを持つことが肝要である」という文脈を読み取れる。より多くの日本の美術作品に触れ、その魅力を体感できるような題材を設定することの重要性が指摘されているものと考えられる。

「浮世絵」は平和を享受した江戸時代の文化の集大成として日本美術の題材を広げ、大衆にとって美術をより身近に感じられることに寄与した。独特の色使いや大胆な構図など、そこに込められた美意識は現代にも通じ、描かれた絵の中の世界からは今に繋がる文化の流れをも感じ取ることができる。浮世絵が海外において称賛される所以は、そこに情緒あふれる日本独自の美意識が凝縮されているからであり、これを鑑賞し身近に感じられるようになることは多分に「伝統や文化のよさや美しさ」を実感し「美術文化の継承」に向けた意欲の涵養に寄与すると考えられる。

今回は浮世絵の中でも世界的に著名な葛飾北斎「富岳三十六景 神奈川沖浪裏」を取り上げる。新紙幣やパスポートのデザインに採用されるなど、昨今再び脚光を浴びている作品であり、構図の大胆さと、そこから想像される物語性、すっきりとまとまった配色など、浮世絵の中でも格別に強い印象を残す一枚である。この作品を改めてじっくり鑑賞することは、学習指導要領の内容に相応しい題材であると考えられる。

(3) 指導観

本題材では作品のよさやそこから感じられる伝統や文化の息吹について、生徒には知識として理解することよりもまず肌で感じる実体験として味わわせたい。「神奈川沖浪裏」のダイナミックさは、真正面から体で感じることにこそ鑑賞の醍醐味がある。

よって作品との対話を重視した鑑賞の授業を目指したい。しかし、ほとんどの生徒にとっては「見たことのある」作品であり、大波のインパクトがあまりにも強く、受ける印象にあまり大差がないことも予想される。そこをあえて作品との対話を重視した鑑賞の題材として取り上げるためには、授業の中でじっくりと観察することに時間をかけ、細部から受ける自分なりの感じ方を十分に味わわせることが必要と考える。その上で、他の生徒の考えに触れることで自分の考えを広げたり、教師との対話の中で造形的なよさや美しさに触れていくことで感じ方の深まりを生み出したりすることが重要である。また、この絵の物語には「正解」があるが、生徒一人一人の見方や感じ方を大切にするために作品情報の提示は最小限に留める工夫も行う。何よりも「クラス一丸となって荒れ狂う海に漕ぎ出す」、そんな感覚を全員で楽しめる一時間としたい。

3 学習指導要領上の位置づけ

〔第2学年及び第3学年〕

B 鑑賞(1)

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕(1)

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

4 題材の目標及び評価規準(※〔共通事項〕(1)ア、イはア____、イ_____で表す。)

(1) 題材の目標

- ・ 形や色彩、材料、光などが感情にもたらす効果、描かれたものやその表現方法を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 (知識及び技能)
- ・ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて独創的・総合的に考え、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める。(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本題材における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩，材料，光などが感情にもたらす効果，描かれたものやその表現方法を基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	鑑 造形的なよさや美しさ，表現の意図と創造的な工夫などについて独創的・総合的に考え，美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	態 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画(全1時間扱い)

	学習のねらい・学習活動	評価の観点・評価方法等			備考
		知	鑑	態	
1	・浮世絵作品の造形的な視点に着目し、表現の意図と創造的な工夫などについて見方や感じ方を深める。	○ 観察 対話 記述	◎ 観察 対話 記述	◎ 観察 対話 記述	「思考・判断・表現」は、着目したことや発想したことを基に考えを深められているかという視点で評価する。

6 本時の学習(本時1/1時)

(1) 目標

- ・形や色彩、材料、光などが感情にもたらす効果、描かれたものやその表現方法を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 〈知識及び技能〉
- ・浮世絵作品の造形的な視点に着目し、表現の意図と創造的な工夫などについて見方や感じ方を深める。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 準備

- 教師：掛図、タブレット端末、ワークシート、BDプレイヤー
- 生徒：教科書、タブレット端末

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される生徒の 具体的な姿(「 」)	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ____)	評価と手立て 【観点】:評価規準(評価方法) ◎:十分満足できる状況 ◆:B評価に達しない生徒への手立て
導入 5分	<p>1 本時のねらいを知り、活動の見通しをもつ。</p> <p>・作品と出逢う。 「波の絵だ！」 「見たことある！」</p>	<p>○黒板サイズに拡大した「神奈川沖浪裏」を見やすいよう掲示し、興味関心を高めるように声かけをする。</p> <p>○掲示の前に集まり、絵がよく見えているか確認する。</p> <p>○出逢いの瞬間を大切に、作品はドラマチックに見せる。</p>	<p>【態鑑】美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (観察・対話)</p> <p>◎作品を注視し、自分の意見を発表するなど、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>◆個別に声をかけ、参加を促す。</p>
<p>提案 考えたことを発表し合い、作品の見方や感じ方を深めよう。</p>			
展開 ① 5分	<p>2 じっと耳をすませて作品から何が聞こえるかを想像する。</p> <p>・感じたことを発表する。 「ざばーん！」 「ボコボコ・・・」</p> <p>3 より細かく観察し自分の気になる点、疑問に思う点を見つける。 「波が手に見える。」 「なぜ嵐の中、船を出しているのだろう。」</p> <p>・座席に戻り、観察から見つけたことや気になったことをワークシートに記入する。</p>	<p>○考えの広がり大きい「音」に着目させる。</p> <p>○波の音以外にも聞こえてくる音や声はないか問いかける。</p> <p>○挙手した数名の生徒に発表させる。</p> <p>○最初の印象にばかりとらわれないよう、隅々まで観察し、注目ポイントや「なぜ」を明確にする。</p> <p>○<u>色や形、光などの造形的な要素に注目しながら鑑賞できるように、教師との対話を通して気づかせていく。</u></p>	

<p>展開② 30分</p>	<p>4 タブレット端末を使い、より細部まで観察し、ワークシートに記入した内容を自分なりに深めていく。</p> <p>5 考えたことを発表し、クラスで共有する。</p> <p>「波が人を襲おうとしていることを、波を手のように描くことで表している。」</p> <p>「同じ服を着ていることから、仕事の同僚たちで、遅れられない仕事に行くのではないか。」</p> <p>6 教科書を開き、作品の基本情報（題名、技法、大きさ、作者、時代）を確認する。</p>	<p>○考えに「間違い」はないことを強調し、記述の途中でも肯定の声かけをしていく。</p> <p>○基本的に肯定し、<u>根拠を問い返す</u>などして、<u>改めて「造形的な視点」に注目させる。</u></p> <p>○挙手がなくなった場合、ワークシートの写真を送信させ、モニターに表示しながら共有する。</p> <p>○細部から受ける自分なりの感じ方を十分に味わわせることを大切にするため、作品に関する情報は基本的な内容に留める。</p>	<p>【知】形や色彩、材料、光などが感情にもたらす効果、描かれたものやその表現方法を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。（観察・対話・記述）</p> <p>【鑑】浮世絵作品の造形的な視点に着目し、表現の意図と創造的な工夫などについて見方や感じ方を深める。（観察・対話・記述）</p> <p>◎自分なりの着眼点を基に発想を広げたり考えを深めたりしている。</p> <p>◆絵の中に気になる色や形がないかを問いかけ、そこから考えを広げられるよう例示するなどして助言する。</p>
<p>終末 10分</p>	<p>7 自由な発想を歌とアニメーションにした動画作品を鑑賞する。 （NHK「びじゅチューン！」より「ザパーンドプーン LOVE」）</p> <p>8 本時の振り返りや、改めて自分の考えを文章で記述する。</p>	<p>○動画の発想も含め、全ての考えが鑑賞の仕方として間違いではないことを強調する。</p> <p>○博物館や美術館で様々な浮世絵を鑑賞できることを紹介して終わる。</p>	<p>（振り返りからも【鑑】の評価を見取ることができる可能性があるため、振り返りの記述も参考とする。）</p>

知 = 「知識・技能」の知識に関する評価規準
技 = 「知識・技能」の技能に関する評価規準
発 = 「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準
鑑 = 「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準
態表 = 表現における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準
態鑑 = 鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。
 ※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している。

7 板書計画

<p>ざ・ぐれいと・うえいぶ (The Great Wave)</p> <p><提案> 考えたことを発表し合い、 作品の見方や感じ方を深めよう。</p> <p>題名: 神奈川沖浪裏 (富嶽三十六景の1つ)</p> <p>技法: 木版画 大きさ: 縦 24.4cm × 横 37cm 作者: 葛飾北斎 時代: 1830年頃(江戸時代後期)</p>	<p>掛 図</p>	<p>発言を補足する言葉や図を 臨機応変に書きこむ。</p>
--	------------	------------------------------------